

デジカメ講座に参加して

三休さん



1) 師匠のお手本 これをコンパクトデジカメで?



2) こんなものにもピントが(大作撮影)



3) 携帯では近接撮影は無理?(三休さん撮影)

8月30日、大作さんによるデジカメ講座に参加した。京都から千葉までは遠いので、年1回くらいだが、参加するときは旅行気分が楽しい。

きのこの写真を撮るときのメインは銀塩カメラで、補助的にデジタルカメラを使用している。デジカメの写真は現像を待たずにすぐ確認できて利用できること、失敗を恐れず多く撮れることがメリットといえる。最近ではデジカメも進化してきて銀塩に負けないきれいな写真がとれる。

講座は講義からはじまった

講座はまず博物館のホールにて、大作さんによる講義からはじまった。デジカメがどのようにして画像を記録するのか、画像データの仕組みなどわかりやすく教えていただき、続いて屋外に出て、撮影を行うことになった。

博物館を出て、周囲の公園で被写体となるきのこを探したが、まったくきのこが見つからず、実習を行うにも肝心の被写体がないという事態に陥りかけた。そして、なんとか被写体となるきのこを発見。地面から顔を出すニガクリタケを撮影することとなった。きのこをデジカメで撮影する場合は三脚に据えてセルフタイマーで撮影しており、当日も用意していたが、最近カメラ付きケータイを購入したので、それによる撮影を試みた。参加者には何人かカメラ付きケータイを使用する人もいたが、これまでは画素数が初期のデ

デジカメ並で、データを吸い出すことも難しかった。最近では 100 万画素以上の解像度を持つカメラと、外部メディアに対応する機種が増えたので、デジカメ代わりにもなる。今使っているものは折り畳んだ状態で横向きで液晶モニターを見ながらシャッターを切るもので、もはや「電話付きデジカメ」とでもいうような趣である。メモリースティックで撮影画像を取り出してプリントすることも可能だ。

ケータイでもキノコの写真は撮れる?!

さて、ケータイでニガクリタケの撮影を試みたが、ヤブ蚊が多くて、じっとしていると刺されまくるので、落ち着いて構えていられない。結果、写真のとおり手前にピントが合わなかったのだが、ちゃんと撮影できたらそれなりの写真になるのがわかった。最大 1280×960 ピクセルで撮影できるため、プリントしてもきれいだ。他には非常に小さなきのこしかなく、大作さんによる接写テクニックの講習も行われた。

博物館に戻り、撮影したデータをパソコンに吸いだし、プロジェクターで映写して確認し、大作さんによる講評が行われた。デジカメで撮影する場合は最大の解像度で行うほうがよいなど、いろいろ学ぶことができて有意義な講座だった。

きのこをデジカメで撮る人にはレンズが回転する機種を使用している人が多いが、一眼レフデジカメも安価になってきたので、これからはレンズ交換式を検討したいと思う。そうすれば、銀塩カメラとレンズを共有できるので大変便利だ。幸いにも欲しいと思っている機種をすでに所有している人が何人かいるので、その状況を見て判断しよう(笑)。



4) ほんとうに初心者?? (浜崎撮影)

デジカメ作例解説

- 1と2) 大作晃一さんは、師匠らしく、ニコン coolpix 950 でピントのあったニガクリタケを撮影、背景も綺麗にぼけている。一つポツンと立つ、コガサタケにも、ちゃんとピントを合わせる技術をもつ。これは、爪楊枝を1本たてて、血のにじむような、特訓の成果という話をして、その特訓のやり方を、みんなに教えてもらう。早速、浜崎さんは特訓をはじめ、次回の採集会では、超拡大の爪楊枝の頭を撮影していた。
- 3) 興味深いのは、三休さんの携帯の写真で、ピントがない、パンフォーカスであるため、あまりに近い近接撮影だと、手前のきのこにピントがあわない。画質はそこそこ、高いことがわかる。
- 4) 浜崎さんは、超初心者であるにもかかわらず、かったばかりのデジカメ、リコー Caplio G3 で、結構上手なニガクリを撮影。

以上の撮影した画像を、博物館の講堂にもどり、液晶プロジェクターで確認しながら、それぞれのカメラの特徴や、撮影方法、技量を、大作師匠に批評してもらった。(吹春記)